

# 高品質米の 安定生産を目指して

上川の米づくり  
47号  
令和5年3月

- ◆ 令和4年産水稻の作柄と品質
- ◆ 令和5年の米づくりに向けて
  - 適期移植の励行
  - 各育苗様式における移植早限と晩限の確認
  - 倒伏防止対策と肥料高騰対策
- ◆ 水稻新品種「空育195号」の紹介
- ◆ 地区別・品位別入庫実績
- ◆ 上川水稻直播ネットワーク情報交換会
- ◆ 上川地区酒米生産協議会活動報告



数多くの北海道を代表する品種が生まれた上川。  
そんな「米どころ上川」の13JAが結集し、その実力をもつ  
と多くの消費者に知ってもらうための統一ブランド

**「上川生まれ 上川育ち」**

「日本一の米どころ北海道」における NO.1 産地を目指して。

上川農業改良普及センター・道総研上川農業試験場  
上川地区米麦改良協会・ホクレン

# 令和4年産 水稻の作柄と品質

令和4年の作柄は全道各地で「良」以上を確保し、4年連続の豊作年となりました(上川: 594kg/10a, 107, 図1)。

品質面では、1等米比率はうるち米、もち米ともに90%以上を確保しました。また、食味についても良好な結果となり、低タンパク米(白米のタンパク質含有率6.8%以下)の出荷率は、過去5年間で最も高くなりました(図2)。

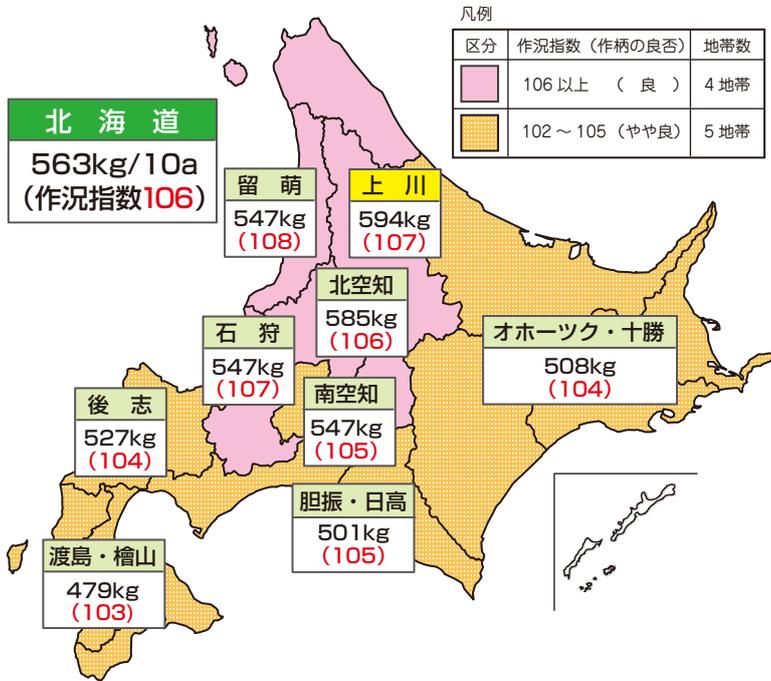


図1 地帯別10a当たり収量  
※ふるい目幅1.90mm使用時  
(R4年12月9日公表、北海道農政事務所)

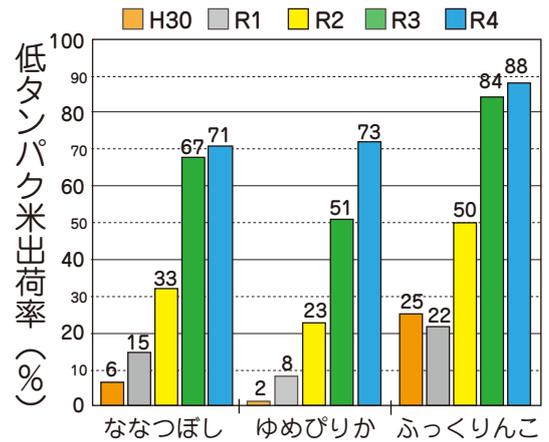


図2 品種別の低タンパク米出荷率  
(ホクレン、R4年12月2日現在)  
※ゆめぴりかは第1区分S  
ふっくりんこは基準品

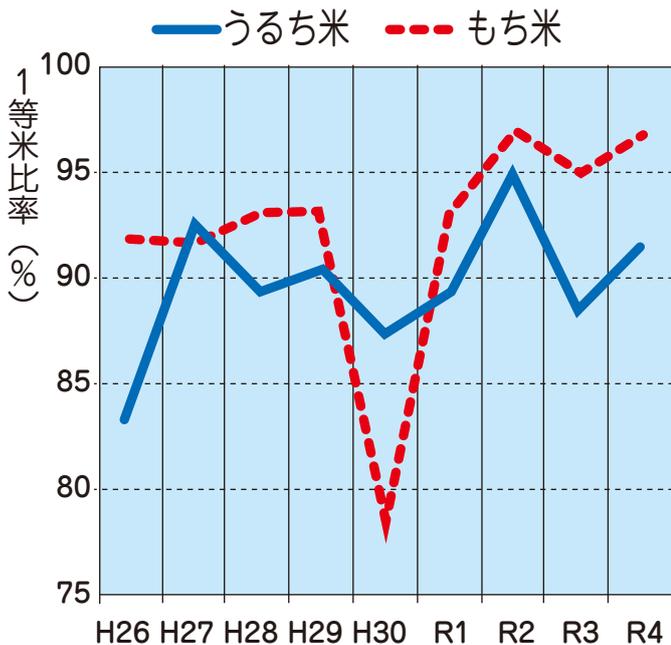


図3 年次別1等米比率  
(各年度11月30日現在速報値、  
北海道農政事務所)

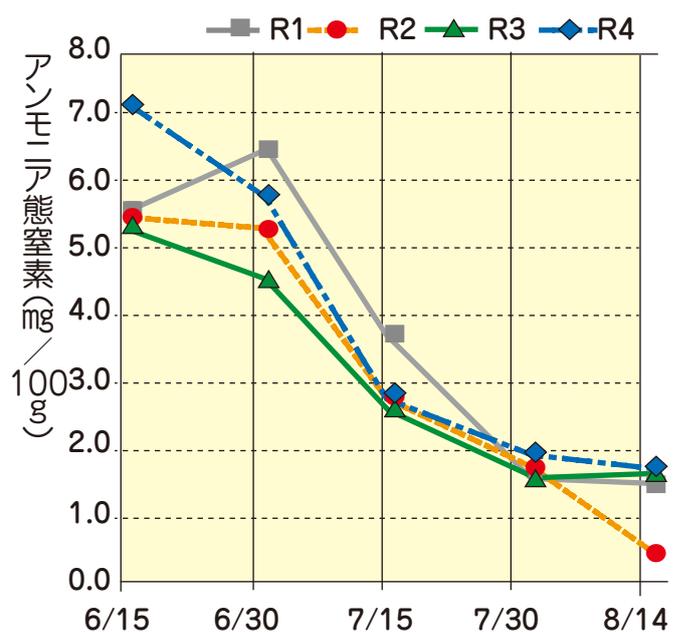


図4 年次別水田アンモニア態窒素の推移  
(上川農業改良普及センター)

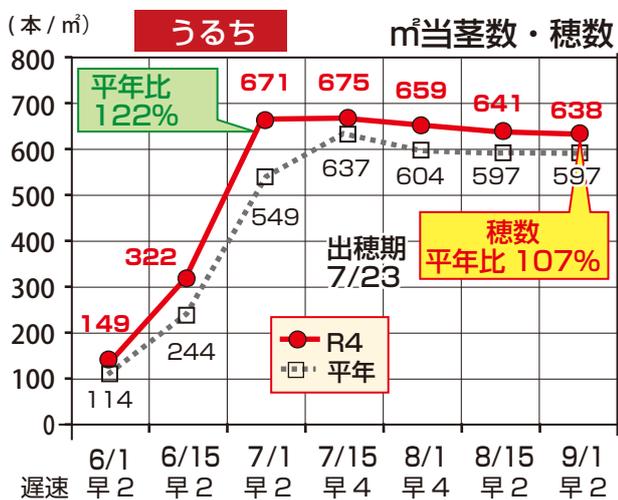


図5 茎数・穂数の推移（上川うるち米）  
（R4年農政部農作物生育状況調査）

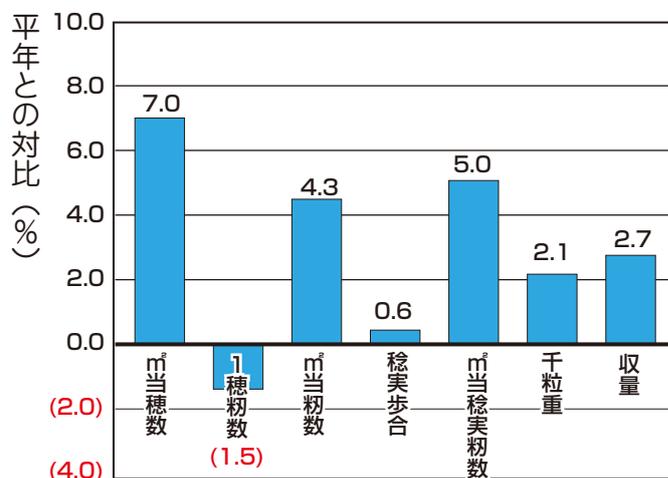


図6 収量決定要素・決定要素の年対比  
（上川うるち米）  
（R4年農政部農作物生育状況調査）

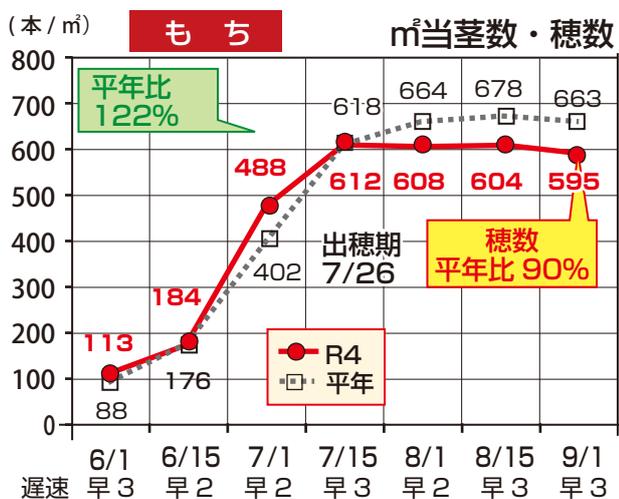


図7 茎数・穂数の推移（上川もち米）  
（R4年農政部農作物生育状況調査）

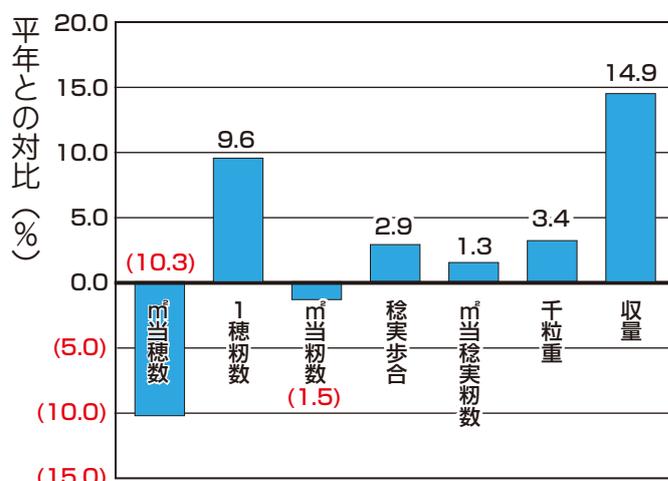


図8 収量構成要素・決定要素の年対比  
（上川もち米）  
（R4年農政部農作物生育状況調査）

## 令和4年の作況、移植後の低温以降は良好に経過

- ① 5月6半旬からの低温・寡照傾向と強風で、移植の遅れたほ場を中心に植え傷みや苗の退色が見られました。地域差も大きく影響が長引いた地域もありました。
- ② 6月下旬になると気温が上がり、植え傷みの見られたほ場の生育も回復し、分けつ発生が盛んとなり、うるち、もち共に初期茎数を十分に確保することができました(図5、7)。
- ③ 水田土壌のアンモニア態窒素は6月15日の値が過去4年で最も高く、その後平年並に低下しました。生育初期に多く利用され、収量構成要素の確保、低タンパク生産につながったと考えられます。
- ④ 7月中～下旬は再び日照不足に転じ、降雨の日も多くなりましたが、気温は高く推移しました。生育は軟弱・徒長傾向で、遅発分けつで茎数を確保した地帯も見られましたが、生育は平年並からやや早く推移しました。
- ⑤ 穂数はうるちが年対比で7%多、もちは10%少、一穂粉数はうるちが年対比で1.5%少、もちは9.6%多となりました。稔実歩合は平年並からやや高く、うるち、もち共にm当稔実粉数を平年並以上に確保しました。千粒重も平年より重く、収量構成要素を確保できた年となりました(図6、8)。登熟期間は好天で適度な降雨もあり土壌水分が確保され、高い収量、品質を得られる結果となりました。

# 令和5年の米づくりに向けて ～令和4年の反省に基づく技術対策～

## 適期移植の励行

- ◆ 近年は5月下旬に高温となり、6月に天候が悪化する傾向が強いです。
- ◆ 「苗床で高温に当たる前に移植を行い、低温に備えて早期活着させる。」との意識を持ち、5月25日までの適期内の早期移植に努めましょう(図9)

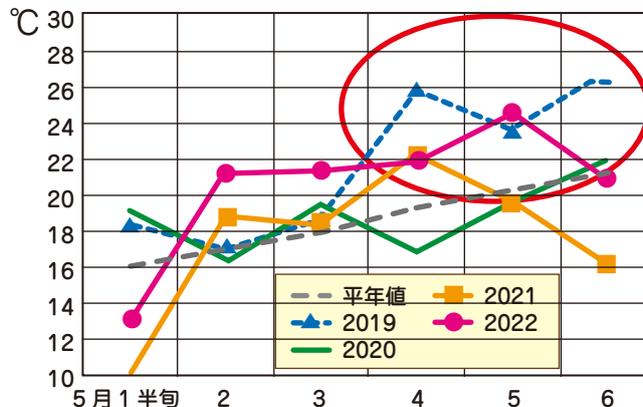


図9 5月の最高気温推移 (旭川アメダス)

## 各育苗様式における移植早限と晩限の確認

表1 育苗様式毎の移植早晩

項目	単位	既存の育苗様式				高密度播種	
		乳苗 箱マット	稚苗 箱マット	中苗 箱マット	成苗 ポット	高密短※1 箱マット	密播中苗※2 箱マット
移植早限※3	℃	稚苗より早	11.5	12	11.5	—※4	—※4
移植晩限	月日	5月20日	5月25日	5月31日	6月5日	中苗に準ずる	中苗に準ずる

※1. 高密度播種短期育苗の略(令和4年普及推進事項、北海道農政部)

※2. 高密度播種中苗の略(平成31年指導参考事項、北海道農政部)

※3. 移植早限は移植後5日間の平均気温で示す。

※4. 設定はないが、早期移植は移植直後の低温が懸念されるため適期移植を実施する

- ◆ 稲の生育期間が短い北海道では、安全出穂期の晩限が早いので、少しでも早く移植して出穂までの期間を長くし、十分な生育量を確保する必要があります。
- ◆ 移植の早限は苗の低温活着性と、移植後の気温を考慮して決められています。また、安全出穂期間を考慮し、移植の晩限も決められています。表1における育苗様式毎の移植早限と晩限を再確認し、適期内の早期移植を心掛けましょう。
- ◆ 旭川市における移植早限は、中苗マット苗で『5月14日(移植後5日間の平均気温が12℃を確保できる日)』、成苗ポット苗は『5月11日(同11.5℃を確保できる日)』です。
- ◆ 高密度播種短期育苗は、苗が小さく胚乳を残したまま移植されるので、低温活着性が良く早植えが可能です。早期移植では育苗温度の不足や移植直後の低温が、晩期移植では本田での生育遅延が懸念されるため、中苗に準じた適期移植を励行します。密播中苗も中苗に準じますが、苗乾物重が中苗マットに比較してやや軽いため、低温条件下での移植は避ける必要があります。

# 倒伏防止対策と肥料高騰対策

- ◆ 令和4年は令和3年に続き高収量を得ることができましたが、各地で倒伏が見られました。
- ◆ 倒伏やなびきが見られたほ場は、土壌診断を行い窒素肥沃度（可給態窒素量）を再確認し、乾土効果や有機物施用に対応した減肥を実施するなど、窒素施肥量について見直しを行い、無理・無駄のない稲づくりで低タンパク米のさらなる安定生産に努めましょう。
- ◆ また、肥料価格の高騰に対して、生育状況や収量・品質の実績と、土壌診断結果を照らし合わせ、無駄のない施肥設計を行いましょう。

## 本田における窒素施肥対応

表2 基準収量に応じた施肥標準量（北海道施肥ガイド2020より）

基準収量 (kg/10a)	全量全層施肥における窒素施肥量 (kg/10a)					リン酸 (kg/10a)	カリ (kg/10a)
	低地土(乾)	低地土(湿)	泥炭土	火山性土	台地土		
420				7.5	6.5	8.0	8.0
450	7.5	7.0	5.5	8.0	7.0		
480	8.0	7.5	6.0	8.5	7.5		
510	8.5	8.0	6.5	9.0	8.0		
540	9.0	8.5	7.0	9.5	8.5		
570	9.5	9.0	7.5				

注1 各地帯区分・土壌区分の基準収量に応じ、施肥量を算定する。

注2 実際の各圃場の収量水準に応じ、窒素施肥量を ±0.5kg/10a の範囲で増減する。

注3 全層・側条組合せ施肥を実施する場合の窒素施肥は、側条施肥を 3.0～4.0kgN/10a 程度とし、総窒素施肥量を表の値から 0.5kg/10a 減肥する。

- ◆ 表2は基準収量に応じた施肥標準量であり、泥炭土のほ場で基準収量 540kg/10a とすると、窒素施肥標準量は 7.0kg/10a となります。
- ◆ この窒素施肥標準量より多く窒素を施用している場合は、生育の健全化や低タンパク化のためにも減肥を考えなければなりません。
- ◆ さらに、土壌診断に基づく施肥対応では、上記の「施肥標準量」から次の3段階評価で、ほ場の窒素施肥量を算定します。

① 土壌診断値 → ② 有機物施用の状況 → ③ ほ場の乾土効果

なお、窒素の増減肥は側条施肥ではなく全層施肥に対して行い、減肥後の窒素施肥量は初期生育を確保するため、4kg/10a を下限とします。

## 窒素施肥量算定の具体例

窒素施肥標準量の算定～表2を参照～

基準収量が 570kg/10a の地帯 → ほ場は乾きの良い低地土  
→ この場合、窒素成分で 9.5kg/10a となります。

### ① 土壌診断値に基づく窒素施肥対応

土壌診断の結果「窒素肥沃度」が「高」だった場合  
↓  
9.5 - 1.0 = 8.5kg/10a までの減肥を考えます

窒素肥沃度 (土壌診断値)	増減 (kg/10a)
低	+0.5
中位	±0
やや高	-0.5
高	-1.0

### ② 有機物施用に対応した減肥

家畜ふん堆肥を施用している場合  
↓  
8.5 - 1.5 = 7.0kg/10a までの減肥を考えます

有機物の種類 (1t/10a施用)	減肥対応 (kg/10a)
稲わら堆肥	-1.0
家畜ふん堆肥	-1.5
稲わらすき込み	0～-0.5

### ③ 乾土効果に対応した減肥

前年の秋、および融雪後に平年より著しくほ場が乾燥し、土壌診断値が 15 mg / 100g ある場合  
↓  
7.0 - 1.5 = 5.5kg/10a までの減肥を考えます

乾燥の程度	土壌診断値 (Nmg/100g)		
	10未満	10～14	15以上
著しく乾燥	-0.5	-1.0	-1.5
乾燥		-0.5	-1.0
やや乾燥	±0		
平年並～湿			±0

## 本田におけるリン酸施肥対応

- ◆ 寒冷地では、初期生育の促進に対するリン酸の施用効果が高く、特に冷害対策の面から土壌のリン酸肥沃度を高めることが強調されてきました。
- ◆ このため、本道では水稻の吸収量（6～7 kg/10a 程度）をはるかに上回るリン酸施肥が行われてきました。その結果、現在の北海道の水田土壌は、リン酸肥沃度が高い状態にあります。

表3 土壌診断値に基づくリン酸の施肥対応

有効態リン酸含量 (mg /100g)	低い 0～5	やや低 5～10	基準値 10～20	やや高 20～30	高い 30～
リン酸施肥量 (kg /10a)	16	12	8	6	4

- ◆ ほ場のリン酸レベルがどの程度なのか、土壌診断で確認すれば、リン酸の減肥により、肥料費がかなり削減できる可能性があります（表3）。
- ◆ リン酸肥沃度が「高い」、「やや高」であれば、施肥量は4～6 kg/10a 程度で十分な肥効を得ることができます。
- ◆ リン酸施肥は肥効が高い側条施肥に重点を置き、生育後期のリン酸吸収は土壌に依存することが合理的です。

## 本田におけるカリ施肥対応

- ◆ カリは作物の要求量が多く、作物中の含有率は窒素と同程度かそれ以上です。しかし、カリはかんがい水からかなりの量が供給されることも知られています。
- ◆ このため、水稻のカリ欠乏はほとんど見られません。また、カリを多施用した場合その吸収量は著しく増加するが、収量はほとんど変わらない、いわゆるぜいたく吸収となります。
- ◆ 北海道の水田土壌の実態を見ると、交換性カリはやや肥沃な程度で、施肥量はおおむね5～8kg/10a 程度と考えられます（表4）。

表4 土壌診断値に基づくカリの施肥対応

交換性カリ含量 (mg /100g)	低い 0～7.5	やや低 7.5～15	基準値 15～30	高い 30～
カリ施肥量 (kg /10a)	14	11	8	5

- ◆ また、カリは水稻収穫時に吸収量の70%程度が茎葉部に存在しており、これらの稲わらをすき込んだ場合は、それがほ場に還元されます。稲わらの直接すき込み（約500kg/10a）や家畜ふん堆肥施用（1t/10a）で4kg/10a、稲わら堆肥施用（1t/10a）で2kg/10a を肥沃度に応じた施肥量から差し引いての減肥が可能となります（表5）。

表5 有機物施用に対応したカリの減肥量

有機物の種類 (標準的な施用量)	減肥対応 (kg /10a)
稲わら堆肥 (現物 1t/10a)	-2
家畜ふん堆肥 (現物 1t/10a)	-4
稲わらすき込み (400～600 kg乾物 /10a)	

## 他に取り組み可能な対応策

### (その1) 有機物の施用に伴う減肥

- ◆ 土壌の生産性維持向上のためには、有機物の施用が有効であるが、堆肥を始めとする有機物や緑肥、ほ場副産物（作物残さ）からはその成分濃度と分解特性に対応して、各種肥料成分が分解・溶出してきます。
- ◆ したがって、有機物を施用した場合、その養分量を施肥量から差し引くことが肥料の削減につながります（表6）。身の回りに有効活用できる有機物があるのであれば、その散布方法も含め対策を考えましょう。

表6 有機質肥料の無機化特性と化学肥料窒素代替性

有機物	C/N 比	窒素無機化速度	化学肥料窒素代替率 (%)
発酵鶏ふん	～7	中～やや大	30
魚粕、大豆粕、なたね粕	～10	大	30
米ぬか	10～13	中～やや大	20
稲わら堆肥、家畜ふん堆肥	13～	小	窒素減肥量で1～2 kg /10a

### (その2) 肥料銘柄選択の見直し

- ◆ 肥料銘柄の選択は直接的に肥料費に係わってきます。次のとおり検討してみましょう。
  - ① BB肥料への銘柄変更や、フレコン受け入れ等による購入価格の低減
  - ② 高窒素肥料銘柄への変更による施肥量の削減
  - ③ 土壌診断の結果、リン酸やカリが過剰となっている場合
    - ・低リン酸・低カリの『L型肥料』への銘柄変更を考える
    - ・全層施肥は硫安などの窒素単肥とし、側条施肥にて化成肥料を使用する
    - ・土壌診断に基づく施肥対応に準じた『単肥配合』の実践

## 新技術の紹介

### 水稻新品種「空育195号」

- ◆ 次のページ以降に詳細をご紹介します。
- ◆ 多収でいもち病抵抗性が強いことが特徴で、「きらら 397」、「そらゆき」の後継として期待が持たれます。



写真1 穂いもち無防除ほ場（左空育195号、右きらら397）



写真2 草姿の比較（定規側から空育195号、きらら397、そらゆき、ななつぼし）

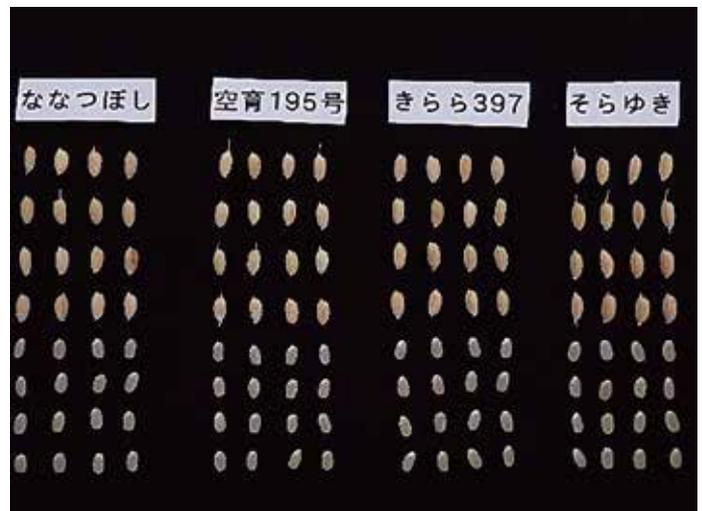


写真3 粳と玄米の比較

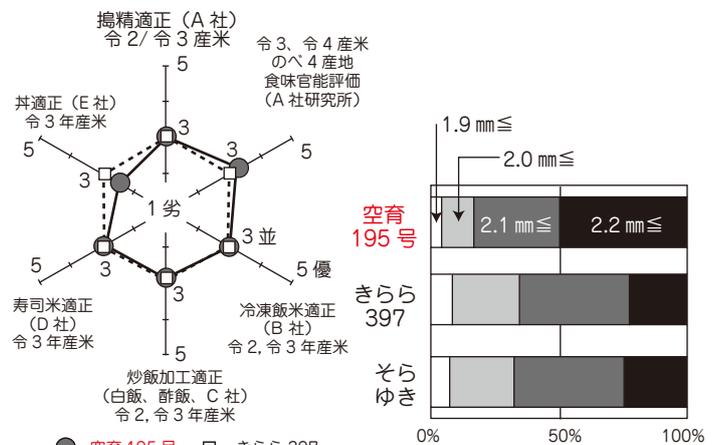
(1) 特性一覧

系統名：「空育195号」 組合せ：空系12238/ 空育184号

特性：長所1. 多収である。2. いもち病抵抗性が強い。

短所1. 玄米品質がやや劣る。

調査地	育成地（中央農試） （中苗標肥）			育成地（中央農試） （中苗多肥）			普及見込み地帯 （農試および現地） （標肥および多肥、n=59）			
	令和元～4年			令和元～4年			令和元～4年			
調査年次	令和元～4年			令和元～4年			令和元～4年			
系統名・品種名	空育195号	対照品種 きらら397	対照品種 そらゆき	空育195号	対照品種 きらら397	対照品種 そらゆき	空育195号	対照品種 きらら397	対照品種 そらゆき	
出穂期の早晩性	やや早	やや早	やや早	—	—	—	—	—	—	
成熟期の早晩性	やや晩	中	中	—	—	—	—	—	—	
草型	穂数	穂数	偏穂数	—	—	—	—	—	—	
出穂期（月・日）	7.28	7.28	7.28	7.28	7.28	7.28	7.26	7.26	7.25	
成熟期（月・日）	9.18	9.15	9.16	9.19	9.18	9.17	9.14	9.12	9.12	
登熟日数	52	49	50	54	52	52	50	49	49	
初期茎数（本 / m <sup>2</sup> ）	355	340	302	409	396	335	467	486	425	
稈長（cm）	69	63	69	71	64	71	73	66	74	
穂長（cm）	15.6	16.0	16.3	15.8	15.9	16.3	15.7	16.3	16.8	
穂数（本 / m <sup>2</sup> ）	692	656	662	754	720	727	665	666	677	
1穂粉数	50.8	45.7	42.6	50.4	45.4	42.1	55.9	50.0	47.8	
粉数（千粒 / m <sup>2</sup> ）	35.1	30.0	28.1	37.8	32.6	30.5	36.8	33.1	32.0	
割粉歩合（%）	9.7	12.8	10.9	9.3	14.9	10.9	18.8	23.3	18.4	
精玄米重（kg / a）	67.6	58.8	59.6	73.3	62.0	62.2	72.6	61.7	64.3	
精玄米重標準比（%）	115	100	101	118	100	100	118	100	104	
屑米重歩合（%）	4.0	5.2	4.0	4.5	6.0	4.2	3.0	5.0	3.7	
玄米千粒重（g）	24.1	24.1	24.9	23.8	23.6	24.6	23.7	23.5	24.3	
玄米品質	玄米等級	2上	2上	2上	2中	2上	1	2上	2上	1
	玄米等級（指数換算値）	4.4	3.6	3.5	4.8	3.8	3.4	4.4	3.6	3.4
	白色不透明粒率（%）	7.9	6.6	1.6	10.6	9.0	3.2	11.8	8.8	5.5
玄米白度	19.2	19.9	19.4	18.9	19.8	19.4	19.6	20.2	19.5	
白米白度	40.5	39.9	40.5	40.9	40.7	40.7	40.5	39.6	40.0	
タンパク質含有率（%）	6.7	7.8	7.4	6.8	7.9	7.6	6.2	7.3	6.9	
アミロース含有率（%）	21.7	20.4	21.5	21.5	20.3	21.3	21.4	20.0	21.3	
芒の多少・長短	少・短	稀・極短	中・短							
ふ先色	白	白	白							
脱粒性	難	難	難							
耐倒伏性	やや弱	中	やや弱							
穂ばらみ期耐冷性	やや強	中	やや強							
いもち病抵抗性	真性抵抗性遺伝子型	<i>Pia,Pii,Pik-m</i>	<i>Pii,Pik</i>	<i>Pia,Pii,Pik</i>						
	葉いもち	強	やや弱	強						
	穂いもち	強	中	やや強						
圃場抵抗性遺伝子 <i>Pi-cd</i>	抵抗性型	感受性型	抵抗性型							
食味評価	柔らかさ	0.05	0.00	-0.08						
	総合	-0.07	0.00	0.00						



注1) 普及見込み地帯の割粉歩合はn=24。注2) くず米重歩合は粗玄米重と精玄米重の差（屑米重）を粗玄米重で除した値。  
 注3) 玄米等級の指数換算値は、1等:3、2上:4、2中:5、2下:6、3上:7、3中:8とした値。注4) 白色不透明粒率は乳白粒率、基部未熟粒率、背腹白粒率及び死米粒率の和。注5) いもち病圃場抵抗性遺伝子 *Pi-cd* の判定は Shinada et.al (2015) 記載の DNA マーカーによる。注6) 食味評価は「きらら397」を基準とした、-2、-1、0、1、2の5段階評価。

図1 「空育195号」の実需評価の結果概要  
 注) 食味官能評価 (A社研究所) は7段階評価で行い、上記図では5段階の評点となるよう按分した。

図2 粒厚別の重量比率 (%)  
 令和元～4年、優決基本調査標肥区 (n=12)、節目1.9mmで選別した玄米を調査。

## (2) 特記すべき特徴

「空育 195 号」は「きらら 397」、「そらゆき」に比べて㎡あたり粒数が多く、収量性がかなり優れる。穂いもちほ場抵抗性は“強”で「きたくりん」並に強く、いもち病の本田薬剤防除を省略できる。実需者が求める加工適性および食味特性を有し、中食・外食向け用途に適する。

## (3) 優良品種に採用しようとする理由

国内の主食用米の需要量は近年約8～10万トン/年ずつ減少している。食料・農業・農村基本計画（農林水産省、令和2年）では、実需動向に基づく生産体制構築のため、加工や中食・外食需要へ対応した米生産の推進が求められている。米の消費量に占める中食・外食の割合は既に30%を超えており、年々増加傾向にあることから、今後重要な位置づけとなっている。しかし、近年中食・外食需要を満たす「値頃感のある安定した数量」の米が不足している。

一方、生産現場では農業従事者が減少・高齢化しており、省力・低コスト栽培等による生産効率の向上と実需者ニーズを満たす米の生産体制の構築が課題となっている。また、みどりの食料システム戦略（農林水産省、令和3年）では、「持続的な農業」を目指す観点から、減農薬栽培等の推進が求められている。現行の中食・外食向け品種「きらら 397」は収量性が不十分で、耐冷性と耐病性が弱く安定生産の妨げとなっている。耐病性を改善した「そらゆき」についても生産者の所得を確保するには十分な収量性を有していない。生産者、実需者、そして社会ニーズに応えるためには、収量性と耐病性に優れ、中食・外食需要に適した品種が必要である。

「空育 195 号」は「きらら 397」や「そらゆき」に比べ収量がかなり高く、普及見込み地帯において安定して優れた収量性を示す。食味特性は「きらら 397」、「そらゆき」並で中食・外食向けでの使用に適している。いもち病抵抗性が強く、「きたくりん」と同様にいもち病の本田薬剤防除が不要（指導参考事項、平成23年）となることで、生産コストを抑えられるとともに、化学農薬による環境負荷を軽減できる。

以上から、「空育 195 号」を中食・外食向け品種として普及させることにより、北海道内外の中食・外食向け需要に応えるとともに、北海道米の生産振興および持続可能な農業の実現に貢献する。

## (4) 普及見込み地帯および対照品種

- 1) 栽培地帯：北海道のうるち米作付地帯
- 2) 普及見込み面積：北海道 8,000ha
- 3) 対照品種：「きらら 397」、「そらゆき」の全て

## (5) 栽培上の注意

- 1) 粒厚が厚く、粒厚選別では網上に未熟粒および死米粒が残る場合があるため、必要に応じて色彩選別を行う。
- 2) 出穂期は「きらら 397」と同じ“やや早”であるが、成熟期がやや遅いので、適期移植に努めるとともに、北海道水稻優良品種作付指標\*における地帯区分（うるち米）「3」および「4」の地域では成苗ポット苗による移植栽培や側条施肥など生育を促進する栽培法を励行する。
- 3) 耐倒伏性が“やや弱”であるため、倒伏防止の観点から、北海道施肥ガイド（一般うるち米の基準収量に応じた施肥標準量）に基づき適切な施肥に努める。
- 4) 周囲にいもち病多発圃場等感染源がある場合は、基幹防除を実施する。また、採種圃におけるいもち病防除対策は既存品種に準じる。

\*北海道水稻優良品種作付指標（北海道農政部令和2（2020）年2月改訂）

# 地区別・品位別入庫実績 (2023年1月13日現在)

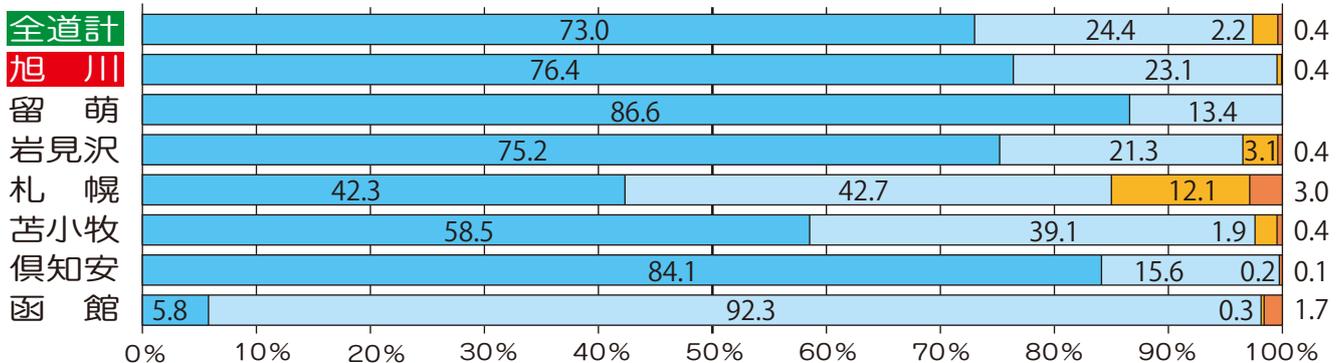
令和4年産「ゆめぴりか」の蛋白別品位については、全道平均での基準品質率が97%、上川管内が99%となり、令和になって以来、全道を上回る基準品率を保っています。生産者の皆様をはじめ、関係機関各位にご尽力いただいたこと、感謝いたします。

また、令和4年産「ななつぼし」の蛋白別品位については、低蛋白区分が最も多く、76%の入庫率となっています。低蛋白率は平成26年産以来、8年ぶりに全道平均を上回る結果となりました。

北海道を代表する「ゆめぴりか」「ななつぼし」双方の低蛋白米安定生産こそが、米どころ上川管内産米のブランド力の維持・向上には不可欠ですので、引き続きご協力の程よろしくお願いいたします。

## 「ゆめぴりか」全道地区別の基準品率 (令和4年産)

<ホクレン支所別入庫実績>



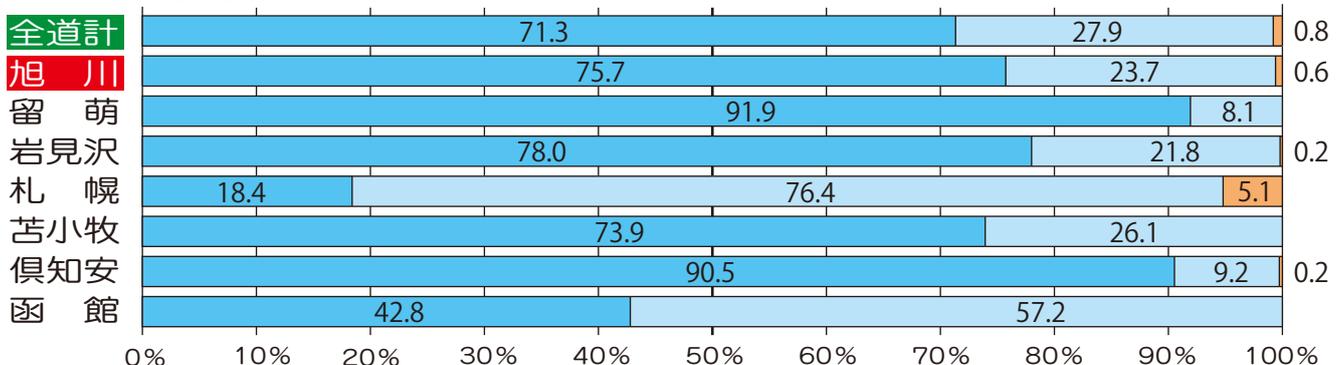
注：構成比は小数点第2位以下を四捨五入しているため合計値が100%とならないことがある(以下同じ)。

- 第1区分S
- 第1区分
- 第2区分
- 第3区分

区 分		タンパク含有率
基準品	第1区分S	6.8%以下
	第1区分	6.9～7.4%
	第2区分	7.5～7.9%
第3区分		8.0%以上

## 「ななつぼし」全道地区別の品位別入庫率 (令和4年産)

<ホクレン支所別入庫実績>



- 低タンパク
- 一般
- 高タンパク

区 分	タンパク含有率
低タンパク	6.8%以下
一般	6.9～7.9%以下
高タンパク	8.0%以上

上川水稲直播ネットワークでは水稲栽培の省力化と産米の収量品質向上を目指し、稲作経営の確立に寄与することを目的に、水稲直播栽培に関する情報交換会を年2回開催しています。

今年度については3年ぶりに夏期情報交換会、冬期情報交換会ともに開催となりました。

### 夏期情報交換会について

夏期情報交換会では、新型コロナウイルスの影響を配慮して人数制限をしたため、例年より少ない36名が参加しました。

最初の見学地である上川農場試験場では、「えみまる」の湛水直播栽培法に関する試験と、直播栽培向け除草剤の効果査定試験の報告を行いました。

次に、上川盆地よりも気温条件が厳しい剣淵町へ赴き、水活見直し政策によって注目されている乾田直播栽培に取り組んでいる生産者のほ場を視察しました。

1件目のほ場では畑用機械装備による乾田直播の取り組みについて説明が

あり、2件目のほ場では、乾田直播と湛水直播の両方の取り組みについて説明がありました。



夏期情報交換会の様子

### 冬期情報交換会について

冬期情報交換会では、気象庁より気象情報活用の講演が行われました。

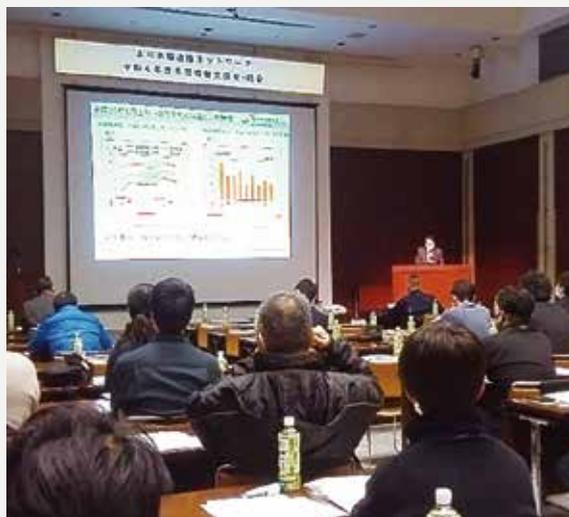
この講演では、季節予報を営農計画に活用する方法や、早期天候情報・2週間気温予報といった気温急変によるリスクの軽減に役立つ気象予報が紹介されました。

休憩を挟んで後半からは、各直播研究会の取り組みについて意見交換がありました。

令和4年度からは新たに東旭川直播研究会が参加し、本年度の取り組みについて説明していただきました。

普及センターからは省力化に向けての調査結果が報告され、①乾田・無代かき湛水の実証展示、②

水稲ドローン湛水直播栽培についての説明がありました。最後にホクレンと上川農試から直播栽培に関する現況の情報提供があり、閉会となりました。



冬期情報交換会の様子

令和4年8月、旭川市内のホテルにて上川地区酒米生産協議会定期総会および協議会を開催しました。定期総会では役員選任が行われ、会長には今野雅義氏（JA あさひかわ）、副会長には柴田隆氏（JA 上川中央）が再任、その後の協議会では令和4年産米の生育状況や、コロナ禍での販売情勢の説明をいただきました。

令和4年度は、「全国での道産酒ファン拡大」を掲げ、道内では広い世代に道産酒を飲んでいただくためにイベントや試飲会などを開催、道外では SNS 等を通じての情報発信に取り組みました。

令和4年9月には「-北海道米でつくる-日本酒アワード 2022」が開催され、本協議会の酒蔵メーカーも多数受賞しました。

旭川市内でも、「あさひかわ Enjoy 地酒フェア」を開催して、日本酒の消費拡大に注力した1年となりました。

## 上川地区金賞「ななつぼし」

上川管内における「ななつぼし」の良質米生産意欲の喚起と競争力の強化を図るため、上川地区ゆめぴりかコンテストにて所縁のある ANA フーズ協力のもと、上川地区金賞「ななつぼし」を選定・商品化しました。

11月8日にななつぼしコンテストと題して、見事JAたいせつが金賞に選ばれました。

また、金賞ななつぼしをPRするため、JA 上川ビル1階で営業している「みはら食堂」にて新米期間中、JA たいせつ産ななつぼしを提供しました。

金賞米プレゼントキャンペーンを実施したところ 158 通の応募があり、抽選で 10 名に JA たいせつ産ななつぼしをプレゼントしました。